

株式会社北村製作所 代表取締役社長 ひろた としあき 廣田 利明 氏

生活基盤を支える製品・サービスで 持続可能な社会の実現を目指す



いながきよりひと
稲垣 偉人 係長

いちのりなつ
一箭 憲光 常務取締役

ひろた としあき
廣田 利明 代表取締役社長

ひらねのたけこ
平嶺 信彦 取締役

よねもとひでと
米本 英喜 執行役員

PROFILE

1959年生まれ、阿賀野市（旧安田町）出身。2003年北村製作所入社。移動通信網（携帯電話）用中継基地局のインフラ整備に伴い1997年から機器収容局舎の納入仕向けに、スーパーバイザー（組立指導員）として北海道から九州、沖縄まで全国を駆け回る。2007年東日本サービスセンター長、2012年通信ネットワークサービス事業部部長、2015年取締役通信事業本部副部長、2017年メンテナンス事業拡大に伴い、子会社（株）北村TCSを立ち上げ東北、関東、西日本エリアにサービス網を構築。2023年11月代表取締役社長に就任。

今年で80周年を迎える北村製作所は、車両事業・通信事業・特殊車両事業・産業機械事業を柱に社会インフラを支える「ハコ」製品の専門メーカー。高品質の製品とサービスを提供し、時代の変化に応えた環境対策を推進する同社の廣田社長に、お話を伺いました。



株式会社北村製作所

〒950-0322

新潟市江南区両川1丁目3604-12

TEL : 025-280-7120

<https://www.kitamurass.co.jp/>



何よりも“人”を大切にした営業、生産活動に取り組むという社風が根付いている。それが差別化にもつながっていると思います

蓄積した技術力とノウハウで 多様な“ハコ”製品を設計・製造

自動車板金工場として創立し、法人化した戦後からは大型バスボデーの製造を皮切りに、時代のニーズに応える事業を次々と立ち上げてきた北村製作所。現在は、運送企業向けのトラックバンボデー、携帯電話やテレビなどインフラ機器・設備の機器収容箱など、生活基盤に欠かせない多様な“ハコ”製品をオーダーメイドで設計・製造している。

同社を率いる廣田社長は2023年に就任。会社が目指す姿を社員で共有する「MVV (ミッション・ビジョン・バリュー)」を策定し、その中の一つに「ファーストコールカンパニーを目指す」を掲げた。「お客様に何かあったら真っ先に声がかかる会社でありたい。発注担当者様の困りごとを解決するお手伝いを、会社をあげて取り組んでいます」。

AI導入による業務の効率化、 環境対策の取り組みを積極的に推進

同社は昨年DXの一環として設計業務にAIを導入し、作業の効率化を推進。図面データを瞬時に探索できるようになり、経験の浅い若手社員でも効率よく業務を行えるようになった。さらに、CO₂削減の取り組みにも注力。「2020年に国がカーボンニュートラルの政策を打ち出したことでお客様からの要望も強くなり、企業責任として環境対策に取り組むべきと考え社内に専門部署を立ち上げました」と話すように、2023年には脱炭素の国際認定「中小企業版SBT認定」を取得。2022年度を基準とした温室効果ガスを2030年ま



本社玄関にCO₂排出量モニターを設置。工場内の電気・ガスの使用量を見える化することで、目標とするCO₂削減への意識付けに繋がっている。

で42%削減することを目標としている。

80年に渡り事業を続けてこられた理由について、「高品質の製品、納期の順守、丁寧なアフターサービスなど、お客様第一主義を続けてきたこと。そして会社の基本方針にもある“とにかくやってみよう”という社風が浸透し、社員のチャレンジを大事にしてきたことも大きな理由の一つだと思います」と話す。

市場の変化に順応した事業展開で 社会貢献できる会社に

「商工会議所さんには、新潟に人が集まる街づくりや観光振興への注力を期待しています。また我々も商工会議所主催のセミナーや異業種交流会などに率先して参加していこうと思っています」と廣田社長。新潟が活性化することで、県内で働く若者が増えることも期待しているという。

「これからは環境・エネルギー分野、防災関連を取り入れたビジネスを展開していきたい。その一つとしてCO₂の削減に繋がる製品開発も始めたところです。市場の変化に順応し、時流に合わせた事業で社会貢献していければと考えています」。今後も高付加価値な製品やサービスを通して、持続可能な社会の実現に向けて挑戦を続けていく。



顧客の多様な要望に応え、一台一台オーダーメイドで設計・製造。数多くのトラックバンボデーを製作することで、物流業界を支えている。



運搬中の荷物が揺れないように、トラック内の側面に金物を取り付ける作業の様子。